

小児科

1. スタッフ

	(専門)	
科 長 (教授)	桃井眞里子	神経
副科 長 (教授)	白石裕比湖	循環器
副科 長 (教授)	四元 茂	消化器・肝臓
外来 医長 (講師)	柏井 良文	血液・腫瘍
病棟 医長 (講師)	福田冬季子	神経・代謝
		内分泌
病棟医長心得 (助教)	野崎 靖之	神経・遺伝
医 員 (教授)	杉江 秀夫	神経・代謝
		内分泌
(准教授)	高橋 尚人	新生児
	山形 崇倫	神経
	郡司 勇治	血液・腫瘍
	河野 由美	新生児
	村上 智明	循環器
	森本 哲	血液・腫瘍
(講師)	森 雅人	神経
	金井 孝裕	腎臓
	南 孝臣	循環器
(助教)	矢田ゆかり	新生児
病院助教	富士根明雄	神経
	横山 孝二	消化器・肝臓
	小池 泰敬	新生児
	佐藤 優子	喘息・アレルギー
	増澤 亜紀	血液・腫瘍
	森本 康子	循環器
	小高 淳	腎臓
	飯田 和美	神経
	川又 竜	新生児
	齋藤 貴志	腎臓
	中村 幸恵	血液・腫瘍
	青柳 順	
	翁 由紀子	
	長嶋 雅子	
	早瀬 朋美	
レジデント	13名	

2. 診療科の特徴

関連領域専門医認定施設

- 日本小児科学会研修認定施設
- 日本小児神経学会研修認定施設
- 日本人類遺伝学会研修認定施設
- 日本超音波医学会研修認定施設
- 日本てんかん学会研修施設

認定医

日本小児科学会小児科専門医	42名
日本小児神経学会認定小児神経科専門医	6名
日本人類遺伝学会認定臨床遺伝専門医	3名
日本医師会認定産業医	2名
日本小児循環器学会小児循環器暫定指導医	2名
日本周産期・新生児医学会専門医暫定指導医	2名
日本がん治療認定医機構暫定教育医	2名
日本内科学会認定医	2名
CD制度協議会インフェクションコントロールドクター	2名
日本心臓病学会FJCC	2名
日本てんかん学会認定医臨床専門医	1名
日本東洋医学会専門医	1名
日本周産期・新生児医学会専門医	1名
日本周産期・新生児医学会新生児蘇生法「専門」コース	
インストラクター	1名
日本循環器学会専門医	1名
日本血液学会指導医	1名
日本血液学会専門医	1名
日本臨床腎移植学会認定医	1名

3. 診療実績

とちぎ子ども医療センターの1年間の小児科総合診療部、専門診療部および入院診療実績について報告する。なお周産期母子総合医療センターのNICUについても一部併記する。

3-1. 外来診療

1) 新来患者数、再来患者数 (人数)

新来患者数	4,178人
再来患者数	37,888人
紹介率	48.3%

2) 小児科総合診療部外来

医師：四元 茂 (部科長・兼)、杉江 秀夫 (兼)、山形 崇倫 (兼)、郡司 勇治 (兼)、森本 哲 (兼)、福田冬季子 (兼)、柏井 良文 (外来医長・兼)、佐間田一則 (兼)、金井 孝裕 (兼)、富士根明雄 (兼)、横山 孝二 (兼)、佐藤 優子 (兼)、岡元 典子 (兼)、中村 幸恵 (兼)、その他専門診療部員兼任

診療実績：

総合診療部の業務は、専門診療部員 (小児科専門医) が兼任で平日午前中のみ外来診療を行っている。新患については原則的に紹介患者のみとしているが、実際

は直接受診される場合が多い。発熱、痙攣、咳、喘鳴、発疹、腹痛、頭痛、嘔吐、下痢、発達障害、体重増加不良などの主訴が多い。また、学校検診における2次精密検査患者も多い。表で示すように7月の新患者数が増加しているのは、心臓病検診、腎臓病検診による陽性者の2次検診が紹介を含め増加したためである。また、2007年に比べ、全般的に患者数は減少しているが、これは1次・2次診療機関との地域連携の向上によるものと思われる。

2008年年間患者数：()内は2007年

	1月	2月	3月	4月
初診患者数	85(85)	69(76)	89(102)	83(86)
再診患者数	834(864)	834(888)	891(1,166)	830(819)
合計患者数	919(949)	903(964)	980(1,268)	913(905)
	5月	6月	7月	8月
初診患者数	77(108)	98(121)	159(131)	144(177)
再診患者数	732(916)	814(918)	918(977)	921(1,056)
合計患者数	809(1,024)	912(1,039)	1,077(1,108)	1,065(1,233)
	9月	10月	11月	12月
初診患者数	97(101)	103(126)	62(104)	82(121)
再診患者数	838(730)	958(999)	925(977)	1,006(1,101)
合計患者数	935(831)	1,061(1,125)	987(1,081)	1,088(1,222)

新患者数 1,148 (1,338) 人
再診患者数 10,501 (1,1411) 人
合計患者数 11,649 (12,749) 人

3) 小児神経外来

医師：桃井真里子、杉江 秀夫、山形 崇倫、森 雅人、諏訪 清隆、福田冬季子、富士根明雄、桑島 真理、藤田ひとみ、岡元 典子、飯田 和美

診療実績：

1月	2月	3月	4月	5月	6月
970人	923人	1,118人	1,077人	896人	1,054人
7月	8月	9月	10月	11月	12月
1,081人	1,040人	983人	1,110人	855人	1,052人

年間総受診数 12,159人

主な診療対象：

複数の疾患を持つ例が多いため、主要疾患の1か月受診者数の概数を記載する。てんかん 300-400人、脳性麻痺や脳炎等による痙攣性麻痺 120-150人、自閉性障害、知的障害、学習障害や注意欠陥多動性障害300-350人、先天代謝異常症 20人、染色体異常や中枢神経形成異常 100人、神経皮膚症候群 20-30人、筋ジストロフィー、重症筋無力症などの神経筋疾患 30-45人、白質脳症、脊髄小脳変性症などの神経変性疾患 10人、チック障害、吃音、頭痛等 40-50人であった。この他、人工呼吸器外来において、14-16人の在宅人工呼吸器患者を診療している。

4) 遺伝外来

医師：野崎靖之

診療実績：

1月	2月	3月	4月	5月	6月
-	-	-	3人	9人	12人
7月	8月	9月	10月	11月	12月
11人	9人	18人	15人	12人	17人

年間総受診数 106人

主な診療対象：

Down症候群、染色体異常症候群、先天奇形症候群、骨系統疾患。

染色体異常、遺伝性疾患は、神経外来に通院している患者も多い。

5) 小児循環器外来

医師：白石裕比湖、市橋 光、村上 智明、菊池 豊、保科 優、平久保由香、森本 康子、齋藤 真理、飯野 真由、佐藤 麻美

診療実績：

1月	2月	3月	4月	5月	6月
362人	348人	443人	393人	388人	387人
7月	8月	9月	10月	11月	12月
379人	525人	402人	418人	367人	390人

年間総受診数 4,802人

主な診療対象：

心室中隔欠損症、心房中隔欠損症、完全大血管転位症、Fallot 四徴症、完全大血管転位症、肺動脈閉鎖症などの先天性心疾患の術前と術後、心筋症、不整脈、川崎病、心雑音の精査などを中心に外来診療している。また、小児科総合診療部外来で、初診や急患としての心疾患患者の受診に対応している。

6) 小児腎臓外来

医師：金井 孝裕、伊東 岳峰、小高 淳、齋藤 貴志、青柳 順

診療実績：

1月	2月	3月	4月	5月	6月
104人	103人	124人	122人	132人	129人
7月	8月	9月	10月	11月	12月
135人	170人	142人	139人	143人	133人

年間総受診数 1,576人

主な診療対象：

慢性糸球体腎炎、35-40名；IgA腎症、25-30名；膜性増殖性糸球体腎炎、8-10名；巣状糸球体硬化症、8名；膜性腎症、3-5名；微小変化型ネフローゼ症候群、38名；Alport症候群；5名、膀胱尿管逆流症、15名；その他、低形成腎、嚢胞腎、尿管アジドーシス、慢性腎不全などを診療している。

外来の特色：

急性血液浄化療法から、小児生体腎移植まで、ほぼ小児腎疾患のすべてを守備範囲としている。また、他の小児専門診療科からの依頼を受けて、血漿交換療法や、G-CAPなどの体外循環療法も行っている。院外との連携では県内はもとより、群馬・埼玉・茨城・東京からも、紹介を受けた。また、小児科医では数少ない腎移植専門医（日本臨床腎移植学会）が勤務する病院として、県外子ども病院から、将来の腎移植を視野に入れた紹介も受けた。

7) 小児代謝・内分泌外来

医師：杉江 秀夫、福田冬季子、関戸真理恵
診療実績：

1月	2月	3月	4月	5月	6月
82人	80人	86人	89人	98人	98人
7月	8月	9月	10月	11月	12月
125人	128人	97人	112人	124人	122人

年間総受診数 1,241人

主な診療対象：

先天性代謝異常症スクリーニング検査の2次検査、先天代謝異常症（OTC欠損症、ガラクトース血症、糖原病など）、高コレステロール血症、糖尿病などの代謝性疾患、および成長ホルモン分泌不全性低身長、副腎過形成、甲状腺機能低下症、バセドー病、思春期早発症、性腺疾患などの内分泌疾患が主体である。

8) 小児消化器・肝臓外来

医師：四元 茂、桃谷 孝之、熊谷 秀規、
市川 万邦、横山 孝二

診療実績：

1月	2月	3月	4月	5月	6月
34人	38人	36人	49人	36人	46人
7月	8月	9月	10月	11月	12月
33人	50人	44人	47人	44人	51人

年間総受診数 508人

主な診療対象：

年間の延べ人数を記載する。胆道閉鎖症（術前、術後）32人、胆汁うっ滞症（Alagille症候群、PFICなど）32人、体質性黄疸（Gilbert症候群、Crigler-Najjar症候群など）3人、B型肝炎（母児感染予防を含む）58人、C型肝炎（母児感染を含む）25人、急性肝炎（新生児肝炎、サイトメガロウイルス肝炎、アデノウイルス肝炎など）26人、慢性肝炎（自己免疫性肝炎、輸血後肝炎、TTV肝炎など）31人、肝機能障害（薬剤性、その他原因不明を含む）58人、脂肪肝（NASHを含む）5人、代謝性肝疾患（Wilson病、NICCD、ヘモクロマトーシスなど）4人、門脈異常、肝硬変4人、胆のう疾患（胆のう結石、胆管炎など）12人、膵炎（急性、慢性、膵管胆管合流異常など）11人、潰瘍性大腸炎72

人、クローン病6人、胃腸障害（胃食道逆流、急性胃腸炎、過敏性腸症候群、便秘症など）15人、消化性潰瘍（胃潰瘍、急性胃粘膜病変、十二指腸潰瘍など）14人、小児外科疾患（食道閉鎖、急性腹症、腸閉塞、そけいヘルニアなど）8人、反復性腹痛5人、食物アレルギー（乳糖不耐症含む）8人、高脂血症5人、肥満症17人、糖尿病6人、その他の慢性疾患（若年性特発性関節炎、高サイトカイン血症、起立性調節障害、ベーチェット病、カルタゲナー症候群、ダウン症候群、進行性筋ジストロフィー、てんかん、気管支喘息、乳び胸、SLE、副甲状腺機能障害、ALL、心不全、尿路感染症、川崎病、貧血、血尿、広汎性発達障害、COACH症候群、不明熱、高CPK血症、心身症、レット症候群、咽後膿瘍、肺分画症、摂食障害、先天性代謝異常、遺伝性球状赤血球症（G-6PD欠損）、喉頭軟化症、HHV脳症など）

肝臓疾患、消化器疾患にとどまらず全身疾患に対しても積極的に診療を行っている。診断・治療に関しては、炎症性腸疾患に対する血球除去法（LCAP・GCAP）の積極的導入、高サイトカイン血症に伴う肝機能障害に対する種々の抗サイトカイン療法、HCV・HBVにおける遺伝子解析に基づく治療方針の検討、TTV定量（ウイルス学教室と連携）など、他施設と比べ最先端医療を施行している。

9) 新生児フォローアップ・シナジス外来

医師：河野 由美、高橋 尚人、矢田ゆかり、
本間 洋子

診療実績：

新生児フォローアップ

1月	2月	3月	4月	5月	6月
157人	174人	176人	180人	217人	202人
7月	8月	9月	10月	11月	12月
264人	309人	187人	213人	191人	213人

年間総受診数 2,483人

シナジス外来

1月	2月	3月	4月	5月	6月
46人	59人	59人	9人	-人	-人
7月	8月	9月	10月	11月	12月
-人	-人	-人	25人	31人	33人

年間総受診数 262人

主な診療対象：

NICU退院児を主な対象とした新生児フォローアップ外来は、4名で計8コマを担当している。対象はNICU退院児で生後1か月から小学校3年生まで長期フォローアップを行っている。診療内容は成長・発達の健診とともに合併症の治療・精査、必要な養育支援である。外科系診療科、心理、リハビリテーション部門と連携して包括的な診療を行っている。新生児難聴スクリーニングの精査・フォローも行っている。冬季に行われるRSV重症化予防のために別枠で設置したシ

ナジス外来で262名、新生児外来でほぼ同数例にパリビズマブを接種した。

10) 小児血液・腫瘍外来

小児血液外来

医師：郡司 勇治、森本 哲、柏井 良文、
増澤 亜紀、中村 幸恵、早川 貴裕

診療実績：

1月	2月	3月	4月	5月	6月
106人	112人	117人	112人	85人	86人
7月	8月	9月	10月	11月	12月
125人	156人	125人	115人	117人	106人

年間総受診数 1,362人

主な診療対象：

急性リンパ性白血病、急性骨髄性白血病、神経芽細胞腫、ウィルムス腫瘍、横紋筋肉腫、網膜芽腫、その他の固形腫瘍、ランゲルハンス細胞組織球症、血球貪食性リンパ組織球症、血友病、特発性血小板減少性紫斑病、遺伝性球状赤血球症などの貧血性疾患、慢性良好性好中球減少症や周期性好中球減少症など。

外来では白血病の化学療法（維持療法）、血友病維持療法、好中球減少症に対するG-CSF療法等を行っている。

11) 小児喘息外来

医師：佐藤 優子

診療実績：(延べ人数)

1月	2月	3月	4月	5月	6月
56人	54人	56人	70人	55人	56人
7月	8月	9月	10月	11月	12月
75人	66人	67人	70人	65人	69人

年間受診数 759人

主な診療対象疾患：

気管支喘息、運動誘発喘息

発作重症度としては、中等症および重症持続型の患児が大半を占め、心疾患や神経疾患を合併している患児も多く診療している。気管支喘息を基礎疾患にもつ外科的手術を要する患児の喘息評価なども行っている。

薬物療法としては、発作重症度にあわせた早期からの吸入ステロイド薬導入をすすめるとともに、環境整備や喘息教育を行っている。

12) アレルギー外来

医師：佐藤 優子

診療実績：(延べ人数)

1月	2月	3月	4月	5月	6月
24人	25人	20人	27人	19人	29人
7月	8月	9月	10月	11月	12月
31人	28人	32人	40人	37人	39人

年間受診数 351人

主な診療対象疾患：

食物アレルギー、アナフィラキシー、薬物アレルギー、口腔アレルギー症候群、食物依存性運動誘発アナフィラキシー、好酸球性腸炎、アトピー性皮膚炎、化学物質過敏症など

近年増加傾向にある食物アレルギーに対して、原因食物の特定や除去食導入や栄養指導、薬物療法を行っており、必要に応じて除去解除目的の食物負荷試験を施行している。

アナフィラキシーに対する急性期の治療と、エピペン処方を行っている。

また、食物アレルギーのある患児に対する麻疹風疹ワクチン（MRワクチン）やインフルエンザワクチン接種を随時施行している。

13) 小児膠原病外来

医師：1月～3月 菊池 豊、4月～ 森本 哲

4月より担当医が菊池から森本に交代し、外来診療日が2日/月から毎週に増加した。

診療実績：

1月	2月	3月	4月	5月	6月
7人	9人	10人	12人	19人	19人
7月	8月	9月	10月	11月	12月
26人	20人	21人	28人	20人	24人

年間総受診者数 215人

主な診療対象：

若年性特発性関節炎（JIA）、全身性エリテマトーデス（SLE）、シェーグレン症候群（SS）など
2008年の主な新規症例は、JIA 5例、SLE 3例、SS 1例、ブドウ膜炎1例であった。

14) 成人先天性心臓病外来

医師：白石裕比湖、保科 優

主な診療対象：

小児科心臓外来で経過観察されて高校を卒業し、18歳以上に達した先天性心疾患患者、および他科または他施設より紹介いただいた18歳以上に達した先天性心疾患患者を対象患者として、外来診療している。患者数は月平均2～6人で、対象疾患は、ファロー四徴、完全大血管転位症などのチアノーゼ性先天性心疾患根治手術後および姑息手術後、動脈管開存コイル塞栓術後などである。対象患者の年齢的特徴から、循環器内科、心臓血管外科、産婦人科などの他科との連携を密にとりながら診療を行っている。

15) 胎児心エコー外来

医師：白石裕比湖

診療実績：

1月	2月	3月	4月	5月	6月
4人	3人	1人	0人	3人	1人
7月	8月	9月	10月	11月	12月
5人	5人	3人	3人	5人	2人

年間総受診数35人

主な診療対象：

胎児の左心低形成症候群、三尖弁閉鎖症、両大血管右室起始症、Fallot 四徴症、完全大血管転位症、多脾症候群、心臓腫瘍、不整脈など。

その他：

院内産科あるいは産科開業医から紹介された、胎児に先天性心疾患や不整脈を持つ妊婦において、胎児心エコー図検査による出生前診断を実施した。

16) 乳児健診

乳児健診は原則当院産科から退院した生後1ヶ月の児を15～20人健診を行っている。また新生児マスキリーニングの結果を外来で家族に説明している。

17) 夜間・休日診療

診療実績：夜間、休日に受診し、小児科医が診療した患者数

1月	2月	3月	4月	5月	6月
681人	568人	505人	379人	344人	341人
7月	8月	9月	10月	11月	12月
372人	313人	279人	359人	465人	492人

年間総数 5,098人

18) 心理検査・心理面接

臨床心理士：稲森絵美子、星子 真美、山田 莉沙

診療実績：

心理検査件数

1月	2月	3月	4月	5月	6月
32人	22人	42人	30人	32人	26人
7月	8月	9月	10月	11月	12月
50人	84人	48人	43人	29人	44人

年間総検査件数 482人

心理面接件数

1月	2月	3月	4月	5月	6月
88人	73人	101人	97人	89人	95人
7月	8月	9月	10月	11月	12月
118人	88人	127人	121人	102人	99人

年間総面接件数 1,198人

主な対象：

検査内容は、神経外来からの知能・発達検査、新生児外来からの極低出生体重児のフォローアップのための発達検査の依頼が主であった。心理面接では、心身症、不登校などの適応障害、発達障害児の二次障害への対応等を行っている。患児に対しては、カウンセリング、プレイセラピー、動作法を行っており、家族の

相談にも併せてのっている。依頼件数は漸増傾向にある。

3-2. 小児科入院診療

小児科は2A病棟（急性期病棟）、4A病棟（慢性期病棟）に分かれている。一部3A病棟にも主に循環器疾患の症例が入院している。また母子周産期総合医療センター NICUの入院もあわせて報告する。

1) 月別病棟新入院患者数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月
2A	56	61	57	53	42	37
3A	12	11	5	5	3	3
4A	32	37	37	26	27	40
計	100	109	99	84	72	80
	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2A	40	37	62	73	52	58
3A	3	2	0	3	0	1
4A	46	38	32	40	48	44
計	89	77	94	116	100	103

2A+3A+4Aの総計年間入院患者数 1,123人

2) 入院患者の疾患別内訳（人数）

		病棟		
疾患名		2A	3A	4A
1	先天異常・遺伝疾患			
	先天性奇形症候群	3	1	10
2	先天代謝異常症	5		1
3	感染症			
	ウイルス感染症			
	RSウイルス	24		4
	インフルエンザ	5		
	単純ヘルペス	1		
	HIV	1		
	その他	5		
	細菌感染症			
	敗血症	5		1
	化膿性頸部リンパ節炎	3		
	蜂窩織炎	7		1
	急性中耳炎	3		
	ブドウ球菌	4		
	溶連菌	1		2
	マイコプラズマ感染症	2		
4	免疫疾患・膠原病			
	血管性紫斑病	1		
	若年性特発性関節炎	3		3
	その他	2		6
5	アレルギー性疾患			
	気管支喘息	70		9
	薬剤、食物アレルギー	1		2
6	呼吸器疾患			
	クループ症候群	8		
	急性気管支炎	64		19
	急性咽頭炎・扁桃腺炎	19	7	
	急性細気管支炎	22		
	肺炎	87		9
	嚥下性肺炎	8		
	百日咳	1		
	無呼吸症候群	1		5
	気胸	1		

	周産期慢性呼吸器疾患	6		
	膿胸	2		
	その他	2		1
7	神経疾患			
	熱性痙攣	24		4
	軽症胃腸炎に伴うけいれん	5		
	痙攣重積発作			1
	てんかん	17		14
	急性脳炎	2		
	インフルエンザ脳症	1	1	
	その他の脳症	8		3
	ウイルス性髄膜炎	2		1
	細菌性髄膜炎	4		1
	急性小脳失調症			2
	運動ニューロン疾患	2	2	
	ミトコンドリア異常症	3		4
	Leigh症候群	7		
	脳性麻痺			5
	脳腫瘍	1		31
	水頭症	1		
8	精神・心理疾患			
	神経性食思不振症			2
	心身症	2		2
	その他	13		9
9	循環器疾患			
	先天性心疾患			
	チアノーゼ型	12	9	30
	心房中隔欠損			6
	心室中隔欠損	2		4
	その他	3		11
	不整脈	1	1	5
	心不全	1	1	1
	川崎病	36		9
	心膜炎	1		
	原発性肺高血圧	4		
	その他			4
	心臓カテーテル検査		28	
	心疾患術前術後管理		9	
	循環器疾患以外の外科術後管理		2	
10	消化器疾患			
	急性胃腸炎	35		7
	腸閉塞	1		
	胃十二指腸潰瘍	1		
	急性膵炎	2		
	潰瘍性大腸炎	1		3
	腸重積	2		
	胆道閉鎖症	1		1
	急性肝炎	5		2
	その他	5		7
11	血液・腫瘍疾患			
	特発性血小板減少性紫斑病	1		5
	血友病			8
	血球貪食症候群	2		
	組織球症	1		
	ランゲルハンス細胞組織球症			13
	悪性リンパ腫			5
	急性リンパ性白血病	1		19
	急性骨髄性白血病			18
	固形腫瘍			3
	再生不良性貧血			2
	好中球減少症	1		
	溶血性貧血	1		

	その他			1
12	腎泌尿器疾患			
	急性腎盂腎炎	33		1
	急性糸球体腎炎	5		
	慢性糸球体腎炎			12
	IgA腎症			4
	ネフローゼ症候群	1		14
	尿路感染症			1
	紫斑病性腎炎			2
	泌尿器外科疾患			2
	その他	1		2
13	代謝・内分泌疾患			
	糖尿病	2		2
	低身長	1		
	尿崩症	1		
	先天性副腎過形成	1		1
	有機酸代謝異常症			1
	その他			4
14	整形外科疾患		2	
15	中毒・事故・外傷			
	被虐待児症候群			3
	頭部外傷			1
	薬物中毒	1		
	ALTE		1	2
	その他	3		1
16	新生児疾患			9
17	外科系手術入院	2		53

3) 新生児集中治療部 (NICU) の入院実績

(一部再掲)

年間入院数401人 (再入院6人含む)

出生体重 (BW) 別、在胎週数 (GA) 別入院数および死亡数を示す。人工呼吸症例数は152人 (全入院の38.4%) で、NICU入院中に手術を行った外科症例 (外科転科直後手術例ふくむ) は23人、動脈管結紮術施行1人、眼科光凝固術施行9人、死亡退院は14人であった。

GA(W)	入院	生存	死亡	生存率(%)
22	1	0	1	0.0
23	0			
24	4	3	1	75.0
25	2	2	0	100.0
26	2	2	0	100.0
27	2	2	0	100.0
28	10	9	1	90.0
29	7	7	0	100.0
30	14	14	0	100.0
31	16	16	0	100.0
32	21	20	1	95.2
33	23	21	2	91.3
34	45	45	0	100.0
35	32	32	0	100.0
36	37	33	4	89.2
37以上	180	176	4	97.8
計	396	382	14	96.5

BW(g)	入院	生存	死亡	生存率(%)
<500	0	0	1	0.0
<750	5	3	2	60.0
<1000	13	13	0	100.0
<1250	22	21	1	95.5
<1500	30	29	1	96.7
<1750	31	29	2	93.5
<2000	53	50	3	94.3
<2500	82	79	3	96.3
>2500	160	158	2	98.8
計	396	382	14	96.5

3-3 主な検査

1) 心臓カテーテル検査

総数83件で、そのうち術前術後の診断カテーテル検査64件、カテーテル治療19件だった。カテーテル治療の内訳はコイル塞栓術7件、バルン弁形成術3件、バルン血管形成術4件、バルン心房中隔裂開術5件だった。対象疾患は心室中隔欠損15件、心房中隔欠損7件、動脈管開存7件、房室中隔欠損7件、Fallot四徴9件、肺動脈閉鎖1件、完全大血管転位3件、Ebstein奇形3件、左心低形成症候群3件、大動脈縮窄複合1件、肺動脈弁狭窄2件、大動脈弁狭窄1件、部分肺静脈還流異常2件、原発性肺高血圧2件、川崎病2件、その他18件だった。

2) 腎生検

腎疾患については、2008年に、17件の腎生検を行った。

3-4 小児科カンファレンス

毎週火曜日、水曜日、金曜日の朝、新入院患者の紹介と討議、水曜午後の教授回診にて入院患者の病状報告と討議を行った。

小児科における症例検討会(CC)は毎週木曜日午後6時からカンファレンス室で病棟入院例を中心に検討会を行った。以下症例検討会のテーマと担当を示す。

日時	テーマ	担当
1月17日	インフルエンザ脳症を反復した若年性特発性関節炎例	佐藤(優)
1月31日	生体肝移植後の児に発症した脳幹部、前頭葉病変	脳外：五味
2月7日	クループの診断における頸部気道単純X線撮影の意義	放射線：相原
2月21日	Sleep-related hypoventilation syndromes	菊地
2月28日	潜在的な代謝異常の存在が疑われた急性脳炎の一例	伊東
3月13日	脂肪酸代謝異常が疑われ、横紋筋融解症および右心不全で死亡した1例	市川
4月10日	慢性的な高サイトカイン血症が存在し、ヘモジデロシスを認めた特異な脳炎・脳症後てんかんの一例	伊東
4月17日	画像診断にかかる放射線被爆防護の考え方	放射線：相原

5月1日	頻回の全般発作と精神運動機能の退行を呈したてんかん性脳症の一例	青柳
5月8日	新生児ヘルペス感染症の1例	小島
5月15日	Opsoclonus-polymyoclonia syndromeを契機に発見された神経芽腫の1例	森本(哲)
5月22日	肝機能障害、高CPK血症が遷延した1例	市川
5月29日	発症時に血球貪食性リンパ組織球症を呈した急性リンパ性白血病の一歳女児例	早川
6月5日	TINU症候群(疑い)の一例	伊東
6月12日	先天性水頭症、多発奇形および胆汁排泄障害、肝機能異常の一例	増澤
6月26日	マイコプラズマ感染による寒冷凝集素症	飯田
7月8日	先天性心疾患の管理と蘇生	小児手術・集中治療部・竹内
9月11日	発熱、発疹、筋炎を反復する4歳女児	富士根
9月18日	胸郭変形により慢性呼吸不全となった多発性翼状片症候群の一例	小島
10月2日	低Na血症で発症したneuropsychiatric SLEの1例	富士根
10月9日	特発性肺高血圧症の1例、最近の治療について	畠山
10月16日	突発性発疹に伴う脳炎・脳症	青柳
10月30日	出産直後より進行性の四肢末梢の壊死をきたした1例	中村
11月6日	左室心筋緻密化障害により心不全に至った1例	早川
11月20日	高度な代謝性アシドーシス、高乳酸血症を伴い、高サイトカイン血症および急性肝不全を呈した症例	増澤
12月4日	21trisomy,先天性心疾患(術後)に合併し、重症な経過をたどったRSV感染症の乳児例	横山
12月11日	非ヘルペス性辺縁系脳炎により性格変化、意識障害を来した1例	早川

4. 来年の目標

とちぎ子ども医療センター小児科は、小児の高度医療を推進することを使命とし、小児科疾患の診療のみならず、センターにおけるあらゆる診療部門との連携により小児の全ての疾患領域の高度医療に対して小児科としての診療を行う。次年度の目標として、①小児科専門診療部各領域における臨床研究を基盤とした小児高度医療の推進、難治性疾患の治療成績の向上、②小児慢性疾患診療における地域医療機関との治療ネットワークの構築、③小児科総合診療部における紹介制の徹底により地域医療機関との連携強化、④小児の治験の推進、⑤地域医療機関との連携による小児救急医療の役割分担の推進と小児三次救急医療の充実、⑥重症児の在宅医療地域ネットワークの構築、⑦小児科医育成の一層の推進を掲げる。